



# 自然観察

No. 97  
2010  
11月

## 目次

・ 生物多様性条約締約国会議COP10が終わって .....	2
・ ウォッチングプラン .....	3
・ 2010年度全道研修会報告 その二 .....	4
・ 第26回滝野の自然に親しむ集い 決算報告 .....	6
・ 会計からのお願い .....	6
・ 第26回滝野の自然に親しむ集い アンケートまとめ .....	7
・ ヒグマを知ろう 第三回 もし出くわしたら…… .....	8
・ 観察部からのお願い .....	10
・ 参加者の声 .....	11
・ フィールドニュース 標茶町、江別市、帯広市、厚岸町 .....	12
・ ウォッチングレポート .....	14
・ 事務局だより・理事会だより .....	16
・ 連絡先他 .....	16



ツチグリ

去る10月、生物多様性条約締約国会議COP10が名古屋で開催されました。

生物多様性条約の3つの目的（第1条）は①生物の多様性の保全、②生物資源の持続可能な利用、③遺伝資源の利用と利益配分で、COP10では2010年以降の国際的な行動目標と取り組みへの戦略が論議されました。合意事項をあげると次のようになります。

## ① 新戦略計画（愛知目標）

長期目標（2050）：自然と共生する社会

短期目標（2020）：生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する。

個別目標：保護区域を陸域17%、海域10%にするなど、合計20目標からなる。

② 遺伝資源の取得と利益配分に関する名古屋議定書の採択：遡及適用は認めない。遵守を確保するためのチェックポイントを指定。派生物は規定上明示しない、という内容。

③ 生物の多様性の持続的な利用の方策として日本が提案したSATOYAMAイニシアティブの採択：世界各地の二次的な自然環境の保全に係る優良事例を集め、そこから得られる教訓を共有し、途上国に対する支援を行うもの。

④ その他：国連に、「国連生物多様性の10年」採択、「IPBES（生物多様性版IPCC）の設立」を求める。民間参画の推進。自治体の取り組みを強化。

「生物の多様性」は当会の目標にある「自然の保護」と密接なつながりがあります。「生物多様性」とはどんなことか、確認してみたいと思います。

生物多様性条約第2条では、用語の「生物の多様性」には「すべての生物（陸上生態系、海洋その他の水界生態系、これらが複合した生態系その他生息又は生育の場のいかなるものもを問わない。）の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む」とあります。

これらの生物多様性について、自然観察や自然との関わりという視点でみなおすと次のようなことに気がきます。

「種内の多様性」は、同じ種の中でみられる遺伝子の多様性をいいます。変異には単に環境により生じた次の世代につながる変異（環境変異）と、次の世代につながる変異（突然変異）がありますが、後者は遺伝子レベルの変異による変異で、同種でも個体群の間に永い間交流がないと

きは個体群の間に遺伝子構成や頻度に差異が生じます。変異形質の中にはその環境に適するものは繁殖し、適さないものは消えていきます。自然選択の積み重ねにより、狭い生育（生息）地域で生育（生息）する個体や隔離されている個体には他の地域の集団との違いが生まれることとなります。ホタルが地域により光の点滅の仕方に違いがあることや、昆虫やカタツムリなどの色や形、大きさ、トリカブトの花の色や含む毒の成分や量の違いなどが同種でも地域により異なることは「種内の多様性」の一つと言えます。また、人工的に作られた栽培植物や外来生物が野生化したり、交雑により在来種のもつ遺伝的な特性や多様性を失うとして、大きな問題を生じています。

「種間の多様性」は、どれだけ多くの種類の生物種が生育（生息）しているか、ということです。ある地域に生育（生息）する植物や動物の種の一覧を植物相（フロラ）・動物相（ファウナ）といい、自然環境を知る第一の手がかりですが、種類数だけでなく、各生物種の個体群の在り方（個体数や年齢構成、生育又は生息のようすなど）は「種間の多様性」の実態を示してくれます。北海道レッドリストには絶滅のおそれがある動植物が、ブルーリストには本来の移動能力を超えて国外又は国内の他地域から人為によって導入され地域固有の生物相や生態系にとって大きな脅威となっている野生動物が掲載されています。希少野生動物の保全・保護や望ましい生態系の保全を考えると、種の数が多いことが環境によいとは言えません。

「生態系の多様性」は、生態系の在り方の多様さです。生態系は、その地域の気候や土壌、水などの無生物的環境とそこに生育（生息）する生物がもたらす生物的環境の相互作用によりつくられています。自然林、二次林、人工林、草原、湖沼、河川、湿原、それぞれその生態系は異なります。人の手により作られた里山や畑や水田などの耕作地には特有の生態系がみられ、放置されるとその生態系は壊れます。生態系はそれぞれが微妙なバランスの上に成り立っています。

アライグマ、ウチダザリガニ、アメリカオニアザミなどの外来種の移入やエゾシカの増加が北海道の他の動植物に大きな影響を与えています。また、利尻の固有種であるリシリヒナゲシが近縁のチシマヒナゲシの移入により交雑種が生まれてい

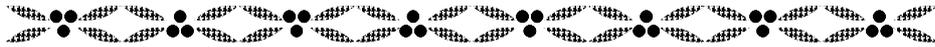
ます。

一方、地球温暖化により、地域により開花・結実や生長、分布など、生態系にも変化が見られると言いますが、これらは注意深い観察や調査・測定などをもとに確認されます。

変わらないように見える森林の景観もよく観察するといろいろなところで倒木によるギャップが生じ、倒木更新や林床植物の変化も見られます。ときには、人が直接又は間接的に関わって生じた

変化に出会うかもしれません。

自然観察のなかで記録し、同じ地域での季節や経年の変化、他地域との比較などから、身近なところでの地球温暖化や生物多様性の現状を知ることができる言います。専門家は、写真だけでも、簡単なメモだけでも、と言います。観察場所については生態系全体として観察地を捕らえておきたいものです。



2010年度 観 察 会 (11年1月8日～11年3月27日)

※日程や下見の日時は連絡先指導員に確認してください。

年月日	テーマ	観察地	集合場所・時刻	交通機関	下見	連絡先
1月8日 (土)	第10回北大構内冬休雪氷観察 「足であじわう雪の観察会」親子で 楽しみ、寒さをフットぼそう！ 専門家が自由研究などの質問に答 えます。(大人の参加も受けます)	札幌市北区 北海道大学構内	北海道大学クラーク会館前 定員25名、かんじきの用意がありま す。希望の方は申し出ください。 ※小4以下は保護者同伴 雪の入らな い靴・替え手袋	JR札幌駅北口から徒歩5分 地下鉄南北線 さっぽろ駅、北12条駅 から徒歩10分		須田 節 011-752-7217
申し込み要領 〒、住所、氏名、TEL、年齢、かんじき希望を書いてFAX・葉書(家族連記) いずれかで申し込み、1月6日必着。 〒007-0840札幌市東区北40条東9丁目1-13 須田節宛 TEL・FAX011-752-7217						
1月16日 (日)	「北大研究林」観察会 冬の野鳥と冬芽の観察	苫小牧市 北大研究林	北大研究林駐車場 10:00集合～12:00解散 ・必要に応じて昼食持参	JR苫小牧駅前バスターミナル市営バ ス9:12発「01交通部前」行き「美園4 丁目」下車徒歩30分 無料駐車場有	当日 早朝	谷口勇五郎 0144-73-8912 宮本健市 0123-28-4720
2月20日 (日)	「冬の円山公園」観察会 冬に耐える植物	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バス待合所 10:00集合～12:00解散	地下鉄東西線 円山公園駅下車		山形誠一 011-551-5481
3月19日 (土)	「突硝山」観察会 春の突硝山 かんじきで歩く	旭川市 突硝山	「突硝山駐車場」(国道40号沿い 「比布トンネル」手前) 9:30集合～11:30解散 小雨決行	「道北バス」旭川駅エスタ向かい、65 番乗り場 「愛別行き」8:20発 「男山公園」8:50頃下車 (バスの時間は3月現在のものです)		原部 剛 080-6092-4347 (問合せ19時以 降)
3月19日 (土)	子ども・親子真駒内公園観察会 ～春をみつけてゲームをしよう～ 空の雲つくってみよう。 雪をつかってアイスクリーム作りを しよう。	札幌市南区 真駒内公園	真駒内公園 屋外競技場駐車場 時計塔前 10:00集合～12:00解散 雪の入らない靴、替え手袋 ※小4以下は保護者同伴	地下鉄南北線 真駒内駅から 定鉄バス「南90」、「南95～98」乗車 「真駒内競技場前」下車		須田 節 011-752-7217
申し込み要領 〒、住所、氏名、TEL、年齢を書いてFAX・葉書(家族連記)のいずれかで申し込み、3月12日必着。 〒007-0840 札幌市東区北40条東9丁目1-13 須田節宛 TEL・FAX011-752-7217						
3月27日 (日)	「冬の錦大沼」観察会 春はどこまで来てるかな	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50集合9:00～12:00解散 雨天原則決行・強風日中止 昼食持参・あれば双眼鏡・ルーペ・ 図鑑など持参	自家用車のみ	下見有り 要 問 合 せ	佐々木昌治 0144-67-2022

協議会行事他

年月日	テーマ	開催地	集合場所・時刻	内 容	連絡先
2010年 11月27日 (土)	忘年会&講演会 詳細は、同封チラシを見 てください	講演会： エルプラザ4FL OA研修室 忘年会： 「旬風処 遊〜ゆとり〜」	北区北9条西3丁目19-1 ノルテプラザ1階 011-717-9666	演題「エコでクリーンな風力発電！の実態」 「雪形って知っていますか？雪形観察の進め」 講師 後藤言行氏、山田高嗣氏	須田 節 011-752-7217
2011年 2月5日 (土)	救急救命講習会	札幌市中央区北2西7 かでのる2・7	かでのる2・7 920 会議室 講習時間 9:30～16:30 必要に応じ昼食持参	※詳細についてはチラシを見てください	須田 節 011-752-7217

前号（96号）に引き続き、道北の特定植物群落7ヶ所を巡る全道研修」の報告（後半）です。  
（横山 武彦 記）

### 3、北オホーツク道立自然公園にある特定植物群落

北オホーツク道立自然公園は、北海道北部のオホーツク海に沿って位置し、猿払村、浜頓別町、枝幸町の2町1村に所在する総面積3,927ha。1968年(昭和43年)自然公園に指定されました。

オホーツク海岸には、斜里から猿払までの間に大小さまざまな湖沼があり、多くは海岸砂丘の形成と関わり、汽水湖がみられます。冷涼な気候と、湖沼及び周辺の植物遷移の中で多様な植物群落が生まれてきました。

第2日は、浜頓別町職員で水鳥観察館の小西敢さんにガイドをしていただきました。



#### (1) 浜頓別ベニヤ海岸草原群落（ベニヤ原生花園）

浜頓別町北西部のオホーツク海に面した海岸砂丘上、海拔0~2mに位置し、ベニヤ原生花園はその大部分を占めていて、頓別川河口部から海岸に沿って旧砂丘上に発達しています。駐車場に隣接した小高いところに建つ展望台からは、この季節では近年稀な快晴の中で、一望するオホーツク海と海岸砂丘、ミズナラの海岸林や原生花園、悠然

と空を舞うオジロワシに歓声があがりました。

開花していたものには、ハマナス、ハマフウロ、ハマエンドウ、クサフジ、エゾノカワラナデシコ、ツリガネニンジン、ウンラン、エゾノカワラマツバ、などが多彩、かつ旺盛に広大な海岸砂丘上に生育しマルバトウキ、シロヨモギ、キバナカワラマツバ、キタノコギリソウ、ハマボウフウ、ハマヒルガオ、コウボウシバが、砂丘に挟まれた湿原には、クロバナロウゲ、タチギボウシ、ノハナシヨウブ、ミズチドリ、ナガボノシロワレモコウなどがみられました。

海岸砂丘上にみられるミズナラーカシワークマイザサ群落には、トドマツ、エゾイタヤ、ヒロハノキハダなどの樹木が、その林床にはエゾノヨロイグサ、カラマツソウ、ツリガネニンジン、エゾノレンリソウなどがみられました。

観察用の歩道や木道に数個体みられたトガリネズミの死体について、小西さんはキタキツネが捕らえて食べることなく道の真ん中に放置したもので、すべてに咬まれたことによる頸骨骨折があり、小西さん自身もその場面を目撃したことがあるとのことでした。

また、砂丘を構成する砂層の上部には鉄分が洗脱（溶脱）されて白くなったポドソル土壤が発達していて、日本の低地でポドソルが見られるのはここだけといわれていますが、今回は砂丘断面の見られるところがなくポドソル土壤をみることはできませんでした。

#### (2) 浅茅野湿原植生・モケウニ沼オゼコウホネ群落

＜浅茅野湿原（王子の森）＞

王子製紙の社有林内にある湿原。約6,000年前の縄文時代以降の海退により生まれたといわれ、オホーツク海岸で最大のミズゴケ群落をつくっています。

＜モケウニ沼＞

浅茅野湿原の奥に、台地（浅茅野台地）に囲まれるように位置するモケウニ沼の岸には、ヨシ群落に混じってネムロコウホネの一変種であるオゼコウホネの小群落が見られるといいますが、台地の上部は農地となっており、駐車場から湖畔に下

りる遊歩道・木道沿いからは観察できませんでした。

海拔標高5~10mの湿原内部にハンノキ林と大小のアカエゾマツ林がみられ、湿原はミズゴケ、ヨシ群落で広く覆われ、ツルコケモモ、タチギボウシ、エゾミソハギ、ナガボノシロワレモコウ、ヤチヤナギ、モウセンゴケ、オオバスノキ、ハンゴンソウ、ホロムイイチゴ、ノリウツギなどがみられました。

#### \* タテヤママリモについて

このモケウニ沼にはかつてマリモが生育していたようですが、北海道では現在、猿払海岸湖沼群にあるキモマ沼・カムイト沼、カモイ沼、浜頓別のボン沼に生育が確認されています。

このマリモはDNA分析により阿寒湖や釧路湿原のシラルトロ湖などに生育するものとは別種のタテヤママリモとされています。タテヤママリモは阿寒湖のマリモのような球状の集合体をほとんど作らず着生糸状体の形で発見されており集合体を作るとしても緩い集合体しか作りません。阿寒湖などのマリモはヨーロッパ、アジア、アメリカの各地に生育が確認されていますが、タテヤママリモは日本の固有種で、本州にも数カ所で生育が確認されています。

#### (3) 浜頓別クッチャロ湖湿原植生

クッチャロ湖畔にある水鳥観察館で大西さんからクッチャロ湖及び周辺の地史、動植物、鳥の渡りなどについてレクチャーを受け、館内の展示・剥製などについての説明をいただきましたが、周辺の湿地には観察用の歩道等はなく、直接、湿原を歩き観察することはできませんでした。

クッチャロ湖は、オホーツク海沿岸にある周囲27km、面積1,607km<sup>2</sup>の汽水湖で、標高1~2m、大沼と小沼の二つがあります。大沼はクッチャロ川という水路でつながり、潮汐により海水が遡上します。シジミ、ワカサギ、シマエビ漁が行われています。湖の東側はベニヤ原生花園につながる砂丘で、標高20m付近の平坦地には173軒余の擦紋時代の縦穴住居遺跡、その北東部には縄文時代前~中期の貝塚があります。北側と西側は標高10~40mの丘陵で、トドマツやアカエゾマツなどの針葉樹を中心とした北方系森林が湖を囲み、南側には湿原が広がっています。

クッチャロ湖は、コハクチョウやガン・カモなど水鳥の渡りの中継地として重要な生息地で、1989年(平成元年)ラムサール条約登録湿地となっています。

#### (4) 浜頓別ミズナラ海岸林、斜内山道付近海岸崖植物群落

浜頓別市街からバス・乗用車でオホーツク海岸を南下、浜頓別ミズナラ海岸林は、海岸沿いに見られるミズナラの自然林です。北海道の海岸林の多くは、ミズナラ又はカシワの単純林、ミズナラとカシワの混合林で、それぞれ独特の海岸景観がみられます。



斜内山道付近海岸崖植物群落はミズナラの海岸林を南下したところにある北見神威岬の崖にみられる植物群で、国道のトンネルの脇道の旧国道から旧国鉄興浜北線の路床跡に車を止め、燈台まで歩いて登りながら観察。山腹にはエゾムラサキツツジ、ガンコウランなどの高山植物がみられ、急峻な崖に見られる特徴ある植物景観がみられました。現地にくくことはできませんでしたが、北斜面にはトドマツ林(高木ではありません)が崖の一面を覆っていて、天然更新しているのがみられました。

端野自然愛好会の方々はここから海岸線を南下して帰途に、他の参加者は元来た道を北上し、浜頓別市街を通らず音威子府に向かいました。時間があれば見学予定としていた中頓別鍾乳洞は今回観察できませんでした。



# 第21回 滝野の自然に親しむ集い 決算報告

滝野の集い会計担当 池田 政明

本年度の収支決算は下記のようにになりました。

## 収入の部

単位:円

項目	金額	備考
一般参加費	84,000	4,000円×21人=84,000円
指導員参加費	38,000	4,000円×7人=28,000円、2,500円×4人=10,000円
懇親会参加費	4,500	500円×9人=4,500円
計	126,500	

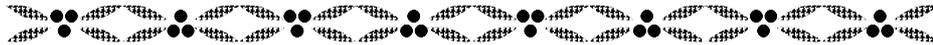
## 支出の部

単位:円

項目	金額	備考
郵送費	7,860	ダイレクトメール33+1通2,880円、レターパック2通700円 切手2,000円、写真郵送19通2280円
事務用品費	8,050	印刷820円、チラシ用紙3,969円、各種用紙3,051円、封筒210円
備品費	0	
写真費	2,500	デジカメプリント2,420円、焼き増し80円
渉外費	10,000	
保険料	4,200	保険料200円×21人
公園入園料	5,360	入園料大人280円×17人=4,760円、子ども50円×12人=600円
学園利用納入金	72,000	施設利用料23,530円、食費33,920円、シート4,930円、薪5,000円、 キャンプファイヤー指導料4,620円
交通費	0	
飲食費	9,413	ビール5,780円、バナナ727円、麦茶175円、飲み物お菓子2,731円
その他	7,220	振込み手数料420円、駐車料6,800円
計	126,603	

2010年度収支決算  
 収入計 226,500円 - 支出計 126,603円 = 収支 -103円

繰越金収支  
 前年度繰越金 173,433円 + 今年度収支 -103円 = 次年度へ繰越金 173,330円



## 会計からのお願い

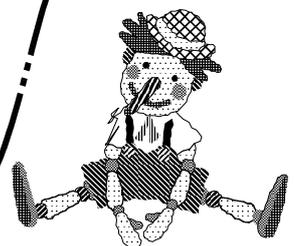
### 忘れていませんか、会費の納入を

2010年度会費の納入がまだの方は、同封の振込用紙（払込取扱票）でお願いします。

- ・年度会費は1,500円です。
- ・未納の方には金額を入れた振込用紙を同封しています。
- ・すでに入金済みの方には、振込み用紙を同封していません。
- ・通信欄は住所変更等の近況報告にお使いください。
- ・差し支えなければメールアドレスを記入願います。

\*退会の申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。  
 届けが出されるまで会費の支払いをしていただきます。

\*郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会  
 会計 畑中 嘉輔



## 第21回滝野の自然に親しむ集い アンケートまとめ

### 【子ども用】 回答 11 / 12参加

- |  |   |
|--|---|
| <p>1. いちばんおもしろかったことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポーカー作り 6</li> <li>・キャンプファイアー 1</li> <li>・フィールドビンゴ 0</li> </ul> <p>2. 発見したことやおどろいたことは何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本物のミヤマクワガタを見た。 2</li> <li>・セミが学園のまわりになくさんいた。 1</li> <li>・水がおいしかった。 1</li> <li>・昼と夜の森の違いにおどろいた。 1</li> <li>・夜の森は暗いと思ったけど少し明るかった。 1</li> <li>・フィールドビンゴで葉っぱのつけ根についていた虫こぶが、おにぎりのようだった。 1</li> <li>・なかった。 1</li> </ul> <p>3. 何かこまったことはありませんでしたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マッチがうまくつかなかった。 2</li> <li>・ハエが多くていやだった。 2</li> <li>・なかった。 9</li> </ul> | <p>4. わからなかったことは何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ光の速さがこんなに速いのか。 1</li> <li>・まきの割り方。 1</li> <li>・名札で読めないのが多かった。 1</li> <li>・学園のある場所。 1</li> <li>・なかった。 9</li> </ul> <p>5. 何かいやなことがありましたか、それはどんなこと？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食堂にハエがいっぱいいた。 2</li> <li>・学園の中に虫がたくさんいた。 2</li> <li>・虫にくわれた。 1</li> <li>・なかった。 6</li> </ul> <p>6. らいねんもさんかしたいですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぜひ参加したい 4</li> <li>・できれば参加したい 5</li> <li>・参加したくない 2</li> </ul> |
|--|---|



### 【おとな用】 回答 9 / 9参加

- |  |  |
|--|--|
| <p>1. 滝野の集いをどこで知りましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おしゃべりから 2</li> <li>・年間予定表 0</li> <li>・PRチラシ 1</li> <li>・前年も参加して知っていた 0</li> </ul> <p>2. 今まで自然観察会などの行事に参加したことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある 4</li> <li>・ない 5</li> </ul> <p>3. 2であると答えた方は、どのような行事ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滝野の集い 2</li> <li>・木の観察会 1</li> <li>・日高青少年の家のイベント 1</li> </ul> <p>4. 滝野の集いで発見したことや驚いたことは何？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川に多くの生き物がいたこと。 2</li> <li>・このような集いがあること自体発見です。 1</li> <li>・年々魚が少なくなっています。 1</li> <li>・空が広がった。(星は見えなかったが) 1</li> <li>・川の流れの速さ、水の冷たさに驚いた。 1</li> <li>・川魚が簡単にすくえた。 1</li> <li>・セミの抜け殻がたくさん見られた。 1</li> </ul> <p>5. 滝野の集いで、一番子どもに良いと感じたことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初対面の大人や子ども同士で話したこと。 2</li> <li>・今までは自然にふれる機会がなかったが今回、川遊びや草木、虫、鳥とふれることができた。 2</li> <li>・友達と一緒に自然を感じた。 1</li> <li>・役割分担をしながら炊事や清掃をした。 1</li> <li>・葉や虫などを身近に見たりさわったりできた。 1</li> <li>・自然の中で食事を子どもと一緒に作り食べた。 1</li> <li>・水や土にふれることができた。 1</li> <li>・川遊びや虫を見つけると子どもの頃を思い出して、懐かしい気持ちになります。今の子どもはそういう自然の中での遊びをする機会が少ないので、この集いの楽しみ方を知って欲しいと思います。 1</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプファイヤーのトーチ持ち、まき割りなど初めてのことを体験できた。 1</li> <li>・自然、親子のふれ合いがあった。 1</li> </ul> <p>6. 宿泊設備についての感想は？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもよかったです。 4</li> <li>・トイレが非常にきれい。 2</li> <li>・トイレの流れが悪かった。 2</li> <li>・古い校舎のわりには、とてもきれいだった。 1</li> <li>・古い校舎が懐かしく思えた。エコがよい。 1</li> </ul> <p>7. その他、なんでもけっこうですから、参加した感想を</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の運動不足のせいか歩くのが大変だった。 1</li> <li>・星が見られなかったのが残念。 1</li> <li>・今まで、こんな観察会はなかった。花や虫や鳥の名前を知っている方がすごいと思った。 1</li> <li>・家族のみでは知識、経験不足で自然体験の広がりはないが、このような集いに参加することで、家族の幅が広がり、感謝しています。 1</li> <li>・全てが初めてづくしで、ついていだけで精一杯でした。この経験を生かして周りの自然を探索したい。 1</li> <li>・この集いをたくさんの人に紹介したい。 1</li> <li>・カレーの食材をもっと多くしてもよかったです。 1</li> <li>・自然観察ハイキングもキャンプファイヤーもとてもよかったです。 1</li> <li>・親子の参加は初めてでとても有意義でした。また、このような集いに参加して行きたい。 1</li> <li>・指導員の方々のお話がとても勉強になりました。 1</li> <li>・星座の話がおもしろかった。夜空を見上げながら聞きたかった。 1</li> <li>・指導員の皆様や関係者の方々の親切丁寧な対応に大変感謝しています。 1</li> </ul> |
|--|--|

## 第三回 もし出くわしたら……

旭川市 山本 牧  
(当会理事、ヒグマの会)

ヒグマの食性や行動をご紹介してきましたが、今回はちょっと実用的に「出くわしたらどうする」を考えてみましょう。

もちろん、状況も相手も人も異なるので、「これなら絶対安全」という方法はありません。でも、ヒグマの習性や過去の例をもとに、思い込みをなくして考えると、「これなら役立つかも」という対応策が見えてくるのです。

まず、出くわしてしまう前に、「遭わない」ことが大事ですね。いちばん確実なのは、クマのいないところに行くことです。冗談のようですが、ヒグマが生息しない利尻山や奥尻島を歩くと、本当にほっとします。クマがいる緊張感が、北海道の自然を守り、謙虚な気持ちにさせて来たのでしょう。

クマの生息域では、音を出して、「ヒトがいる。道を譲ってほしい」と伝えることが大事です。正常なクマは、人間に気づけば、「餌が来た」なんて思わずに、離れるか、隠れてやり過ごそうとします。

ヒグマは視力がよくなく、木々も茂っているので、「視覚」はあまり頼りになりません。嗅覚は鋭いようですが、風任せなので確実ではありません。特に沢登りや釣りの時は、上流から風が吹くことが多く、水音もあって、出くわしやすい条件なので気をつけましょう。

### ■音を出す

音を出すのは、鈴やラジオが一般的で、効果もあるのですが、実のところ私はうるさいので好きではありません。登山道でラジオの音は興ざめですね。ただ、山菜採りなどの時は、入り口にラジオを置いておくと、迷子になるのを防ぐ効果もあります。

もう一つのデメリットは、「うるさくて自分の聴覚が損なわれる」という点です。山では人間も音で何かに気づくことが多いのです。何か音がしたら、まず自分の動き止めて耳を澄まし、ゆっくり目をこらす。これだけで、いろんなものが見えてきます。私は動物調査の時は、大雨でない限り、カップのズボンをはきません。がさがさ言うので、音が聞きとりづらいからです。

鈴やラジオがなくても、登山道がササやハイマツの茂みに入るときなどは、ちょっと警戒音を出したくなります。そのときは「拍手」をしましょう。手をたたく音は破裂音なので、野外ではよく響きます。「パンパン」とかしわ手を打ち、「おい、行くぞー。どいてくれー」と声を出して、ヒグマ大明神に退場を頼みましょう。

むかし大雪山で、ハイマツ帯に入る前にヒグマを見かけてしまい、ヤブこぎのあいだ中、歌を歌っていたこともありました。ストックを打ち合わせて金属音を出す、などの方法もいいでしょう。

### ■食べ物を管理する

前回も触れましたが、ゴミや残飯を出して人間の食べ物の味を覚えさせるのは厳禁です。自分だけではなく、次に来る人を危険にさらします。ウエンカムイ（悪い神）とは、人食い熊のことではなく、食べ物を求めて人間に近づくクマのことです。

北米では野外キャンプの際、調理する場所と食糧を貯蔵する場所、それに寝るテント、この3カ所を約100メートルずつ離れた正三角形に配置するよう指導されています。特に自分が寝る場所には、食料や調理のにおいがつかないように、厳重に注意します。

食料はキャンプ場だと「フードロッカー」という保存場所が別があり、設備がない場合は、クマの歯が立たない容器を持参します。ヒトが被害に遭わないため、そして、クマを無用の駆除に追いやらないためです。

### ■とにかく逃げない

さて、そんな予防策をとっても、クマと遭ってしまうことがあります。距離や場所にもよりますが、絶対を守るべきは「逃げるな」です。クマ研（北大ヒグマ研究グループ）では、「止まれ、見よ、逃げるな」と言います。

「止まれ」とは先ほど書いたように、まず、自分の動きを止めて耳を澄ませ、心を落ち着けることです。ストップモーションのように、瞬時にその姿勢で動きを止め、ゆっくりを首を回して気配のする方を見ます。「見よ」は心静かに観察し、対応策を考えることです。そして、「逃げるな」。

どんなにどきどきしても、走って逃げてはいけません。

これだけ言っても、いざクマが出たら逃げ出したくなるでしょう。でも、ほとんどの場合、クマは人間を攻撃したいとは思っていません。でも、逃げる相手はつい追いかけてしまうようです。犬なら足にかみつくのですが、ヒグマは強力な腕と爪を持っています…。

#### ■見つけたら手をつなぐ

観察会や登山の時など、最初のセーフティークでこう言います。「もしクマが出てきても、絶対に逃げないでください。お互い逃げ出さないよう、隣の人の袖口や背中をつかんでしましましょう」と。けっこう笑い声が挙がりますが、これはたぶん有効だと思います。（「たぶん」というのは、実際に試していないからです）

明治以来、いろんな人身事故の例を調べていますが、人間が複数集まっているところに、遭遇したヒグマが突入してきた例はありません。ライオンに襲われたシマウマが円陣を組む例もありますが、ましてプロの殺し屋ではないヒグマにとって、自分より大きく見える複数の人間は、攻撃の対象にはなりません。複数の人が死傷した例でも、別々に逃げてしまい、一人ずつ襲われて大きな事件になっているのです。

2人3人と手をつなぎ合い、できれば横に並べば、そうした「人間の壁」に突っ込むクマはいないと思います。どなたかぜひ試してください。私の場合、そうなる前にクマが離れてしまっています。

「固まって心を落ち着けて観察」が基本ですが、距離が離れている場合は、そこから静かに離れましょう。もちろん、ゆっくり、離ればなれにならないように。

#### ■近づくクマに声をかける

クマが近づいてくる場合は、背中を向けずに、向かい合います。一人でも両手両足を広げて大きく見せると良いといえます。ワンタッチ傘を開いたり、ビニールシートをばさばさやるとクマが逃げたという実験はありますが、野外で可能でしょうか。

クマに向き合いながら、声をかけます。最初は興奮させないよう、「何も持っていないよ」「おい、来るなよ」などと。さらに近づくようなら、声を大きく威圧的に「こらっ、来るな」「あっちに行け」。

このとき、クマの表情に注意しましょう。顔をしかめるように、鼻筋にしわが寄っているときは、かなり危険です。クマは怒っています。頭を下げ、よだれを垂らすなどは、攻撃の前兆です。

多くの場合は、こうした剣呑な顔つきではなく、どことなく間抜けな顔で、好奇心があるだけのことが多いようです。立ち上がるのは、攻撃の前触れではなく、むしろ安全です。単に視点を高くして、こちらをよく見たいだけなのです。その証拠に、立ち上がったクマの前足は、だらんと下がって、緊張感はあまり感じられません。

#### ■なぜ寄ってくるの？

普通のクマは人間を敬遠しますが、どんなクマが人に近づくのでしょうか。人を餌と思って捕食しに来るクマはまずいません。もしあれば、ニュースで大騒ぎになりますから分かります。

急に出くわせば、クマも動転します。どうしていいか分からず、人間が逃げたり、興奮させたりすると、攻撃行動が誘発されます。最も多いのがこのケースなので、「逃げずに離れる」が有効なのです。

人の持つ食べ物に味をしめたり、好奇心で近づくクマもたまにいます。これらには、強気で向かい合い、状況を見て「こらっ」と対処するのが有効です。逃げれば襲われます。

子連れの母グマは、追い詰められるとヒトに向かってきます。子グマと母グマの間に割り込んでしまったり、気づかずに近づいたケースです。でも、必ずそうなるのではなく、子供を呼び寄せて離れて行ったり、母グマだけ逃げ出すこともありました。

寄ってくるケースばかり挙げましたが、ほとんどのクマは、人より先に気づき、離れるかやり過ぎそうとします。「やり過ぎす」というのは、遠くに行かずに、ヤブや茂みの中にそっと隠れて人が立ち去るのを待つのです。「ぷーん」と獣臭いにおいがするときは、すぐ近くに潜んでいるのかもしれない。私も2メートルほど先から鼻息をかけられたことがあります。気配を感じたら、避けてくれたクマに感謝しつつ、静かに離れましょう。

#### ■最後はスプレー

攻撃してくるクマには、立ち向かうのと、死んだふりと、二つの選択肢があります。普通の人にとって、比較的使いやすいのはクマ撃退スプレーだと思います。射程は約4メートル。催涙ガスのようなトウガラシ抽出液で、向かって来るクマの顔面に噴射し、くしゃみ鼻水で攻撃どころではなくなります。

「クマが嫌いな匂い」ではないので、直接噴射以外には効果はありません。遠すぎてもダメ。「攻撃直前の顔面」です。

実は私、安全ピンを抜いてクマに向けて構えた  
自然観察 97号 ( 9)

ことはありますが、実際に噴射したことはありません。そこまでクマが来ないので。初めてクマに出会った人が有効に使えるかどうかは微妙ですが、とにかく「やられると思った直前、顔面噴射」なのです。1本約1万円。有効期限に気をつけましょう。

「ナタが唯一最善の武器」という説があり、実際にこれで闘って助かった人もかなりいます。ただ、スプレアの射程4メートルに比べると、こちらは有効距離1メートル以下なので、クマに抱きつかれてからの武器です。有効な使い方もできると思いますが、かえってクマを興奮させる可能性もあり、過信は禁物です。スプレーもナタも、すぐ使えるよう、腰につけておかないと意味はありません。

意外に役立つのが「長い棒」です。クマは完全肉食の殺し屋ではないので、攻撃行動はあくまで偶発です。飼育グマで実験すると、長めの棒を鼻先に突きつけると、ほとんどのクマはひるみます。アイヌの古老も、銃が不発だったとき、弾の出ない村田銃をヒグマの鼻先に突きつけ、クマを退散させたと聞きました。クマが近づいてくる場合、杖やストックを持っていたら、「鼻先の方に突き出す」は有効でしょう。

## ■死んだふりは？

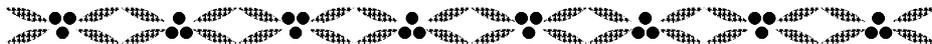
「死んだふり」はどうでしょう。捕食目的の相手には通じませんが、一時的な興奮や餌ほしさのクマなら、助かるケースもあるそうです。

北米では後頭部に手を回して指を組み、首筋を守るやり方が推奨されています。足を広げてうつぶせに寝る姿勢のほか、体を丸めて両ひざを腹にしっかり近づけて横たわる方法も。どちらも致命傷になりやすい首やのど、腹部を守り、負傷しても背中や足で済ませようという考えです。

このとき、クマが体を触ったり、においをかいても、一切動くなと言います。クマが「フンフン」と鼻を寄せてくるとき、じっとしているのもつらいなあ、と私は思ってしまう。

でも、逃げ出したらすぐ追いつかれてパコッとたたかれるわけで、セフトイトークのとき、私は「逃げ出すくらいなら、その場に腰を抜かしてね」と言うのです。

交通事故で痛い目に遭わないようにするため、多くの方はまず安全運転を心がけます。ぶつかったときの避け方を練習する人は多くはないでしょう。同じように、クマへの対応も、「遭遇時」以上に、「遭遇しない」心がけが大切なのです。多くのヒグマは、私たちが気づかないうちに、先に避けてくれています。その関係を壊さないようにすることが、ヒグマの生息域での最大の心得です。



## 観察部からのお願い

今年もまた、来年度（2011年度）の観察会予定表作成の時期が近づいてきました。観察部では、全道各地の会員の皆さんから来年度の観察会企画を広く募集いたします。今年度観察会実施の皆さんは勿論のこと、新たに観察会を企画してみたいフィールドをお持ちの皆さんから、たくさんの応募を期待します。

つきましては、今年度観察会予定表に準じ、

「月日」「観察地」「テーマ」「集合場所・時刻」「交通機関」「連絡先」等の各項目を記入し、下記宛郵送してください。

なお、保険適用（観察会集合場所から解散場所まで）の関係上、当会では、参加者を観察会開催地まで指導員の車に同乗させることは、原則として認めておりません。企画・運営にあたっては、その点に留意し開催場所および集合場所等の設定を行うよう、よろしくお願いいたします。

募集期限は12月15日までとし、観察部会で、日程調整などの検討を加えた上で、来年2月の理事会に提出する予定です。

なお、追加および訂正等につきましては、1月末まで受付いたします。

観察部 山形誠一

〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14



南区 藻岩山スキー場 ( ' 10/8/29)

豊平区 松本 達也

札幌市の中にこんなに虫がいるとは思いませんでした。子供は虫が大好きなので、きっと楽しいだろうと思い参加しましたが、自分の方が夢中になっていました。

私も虫は大好きで小さい頃は色々な虫を捕まえていました。赤トンボは、みんな同じだと思っていました。あんなに名前が違い、あそこまでじっくりと観察した事はありませんでした。良く見ると違いがわかりました。

何よりオニヤンマはすごかった。私は、図鑑で見るだけで、本物を生きたまま見た事がなかった。札幌にあんなにもいるとは思いませんでした。実際に見せてもらって、こんなに大きくて、きれいな色をしているんだとそれだけで満足しました。

私も子どもの網を使って、捕まえてみたいと思い、飛んでいるオニヤンマを目で追って、止まった所を網で捕まえようとしたのですが、最初失敗しました。もう一度、同じところへ来ると聞いたので、じっと待っていました。そうして、向こうから飛んでくるオニヤンマを網で捕まえた時はものすごくうれしかった。

とにかく、自分が楽しませてもらった様でした。参加させてもらい、本当にありがとうございました。



オニヤンマ 藻岩山



ユキムシ (トドノネオオワタムシ) 北見市

小樽市 緑地区 ( ' 10/10/2)

豊平区 岩井 善昭

秋日和に恵まれた。小樽商大裏の遊歩道入り口近くの「栃の木 (トチノキ)」から始まって、小田観螢碑をへて小林多喜二碑の手前の「コリンゴ」まで、およそ40種の観察ができた。ただし、食用キノコがゼロにひとしくガックリした参加者もいた。

「ハッカ」が珍しかった。葉を揉んで鼻を寄せるといい香りがした。その傍にあった「あきのうなぎつかみ」似た花の(ままこのしりぬぐい)の名前がおもしろい。

果実では「朴の木 (ホオノキ)」の実をはじめて見た。「栃の実」を拾い集めたが、あく抜き・渋抜きの方法はだれも知らなかった。

中学生が「カナヘビ」(カナチョロ)、「ハネナシフキバツタ」を見つけた。彼は毒キノコの「ニガクリタケ」を指導員の実演を真似てかじってる。帰り道で感想を聞くと、大いに満足したらしい。

小樽市 長橋なえぼ公園 ( ' 10/10/23)

清田区 片山 紀久枝

「小樽長橋なえぼ公園”晩秋の森を歩く”」に初めて参加させて頂きました。札幌からの参加だったので、現地に9時迄着けるか心配でしたが、丁度9時に着きました。

電車に乗っていると、何となく旅情に浸るような気分でした。それというのも、何処からか忘れましたが、急に海が目前に開けて、「ああ！海っていいなあ」と思いました。山も海も私は大好きです。両方を楽しめるなんて贅沢だなあ…と思いました。海も空もまっ青でとても気持ちのいい日でした。

さて、公園の中の散策、晩秋の森は又新緑の時と趣きが違い、いいものですね。初めの内は、鳥の声がいっぱい聞こえてキョロキョロしてしまいました。鳥にも興味があるので。

しばらく歩いて行くと公園というよりは森の中という感じで、とても気持ち良かったです。栗が沢山落ちていました。紫色の可憐な実をつけた植物や、雪虫の習性をはじめて聞き、興味深かったです。

## ヒシから教わる生物多様性

標茶町 牛崎 方恵

今年、COP10開催国ということで生物多様性という言葉をよく見かけます。今回は、私にとって身近な植物であるヒシを通して見た様々なつながりを紹介します。

ヒシは全国の湖沼などに分布する水草で、アイヌ語でベカンベ又はペカンペと呼ばれます。私の住む標茶町の塘路湖では、7月下旬頃から可憐な白い花を咲かせます。9月にはヒシの実採りの舟が見られ、採取された実は塘路のお店で売られています。茹でて食べると栗に似た食感で、澱粉質に富んだ実はアイヌの人々にとって大切な食糧だったので、神の恵みに感謝を捧げ収穫の許しを乞う儀式を行ってから収穫していました。昔の塘路の小学校では、ベカンベの収穫にあわせて夏休みを他の学校と半月ずらしたり、ベカンベ祭りという観光イベント（現在は休止中）が開催されるなど、人々の生活と深い関わりがあり地域の歴史を教えてくれる植物でもあります。

9月に達古武湖で行われた環境省主催の自然再生を考える調査体験会に参加する機会がありました。10年程前から水質が変化し始めた達古武湖では、最近光を遮るヒシばかりが生えるようになったので、ヒシの刈り取り・引き抜きを行って、他の植物が生える手伝いをする取り組みを行っているそうです。実際に引き抜いたヒシを見ると、色々な生きものに棲み処を提供していることや、浮きの役目をする膨らんだ葉柄の構造と感触から生きるための工夫がわかり、自分の視点になかったことを発見できるイベントでもありました。

10月に入り釧路湿原の湖沼にも天然記念物のヒシクイ（菱喰）が渡りの途中で羽を休めるようになりました。この秋は身近な動植物を様々な視点で見ようと思います。

## クスサン観察記 -その2-

江別市 森 繁寿

会報85号で大型蛾クスサン観察記を紹介しましたが、今回は更なる情報を報告します。

その一：幼虫は終令期にマユづくりに入るが、その二日くらい前から動かず食べずの状態となった。

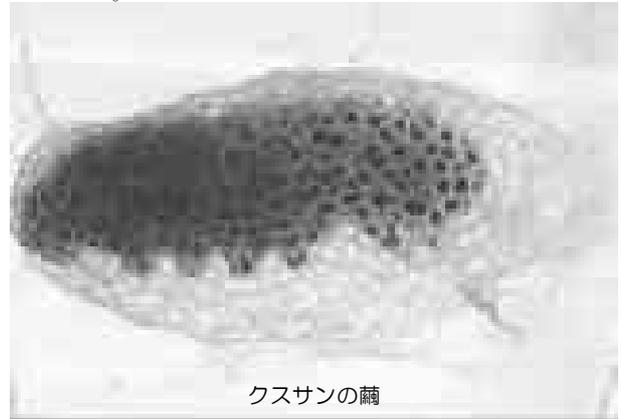
・次にマユをつくるポイント

1. マユの落下を防ぐため木葉や笹等を巧みに使

自然観察 97号 ( 12)

いマユをしっかりと附着させる。

2. 幼虫が糸を張る手順は、先ず外側から内側へと張り続け概ね四日で網目状のマユを完成させた。



クスサンの繭

その二：幼虫からサナギへの変身を直接観察するのは容易ではないので、ビデオカメラをセットし撮った映像をスロー再生することで観察できた。

早速幼虫からサナギに変身する過程を再現してみよう。先ず幼虫の頭部付近に亀裂が入った後、突如表皮が脱げ落ち、サナギの誕生と相成った。

その三：サナギの状態約30数日過ごし羽化となるが、成虫は果たしてマユからどのように抜け出てくるのかである？

観察の結果、マユ内で羽化した成虫は、まず出口部分に液状物を噴出し軟らかくした後、頭部を出口に押し当てて競り上がるような格好で、マユから抜け出てきた。ちなみに脱皮までの所要時間は約20分であった。

以上、クスサンの観察で解ったことも多いが、いろいろな不思議もわいてきた。例えば、成虫は秋に産卵するが、冬季間はどこでどのように生き抜き、春に幼虫が出現するのか等々、私にとってはいつの日か確かめてみたいものである。

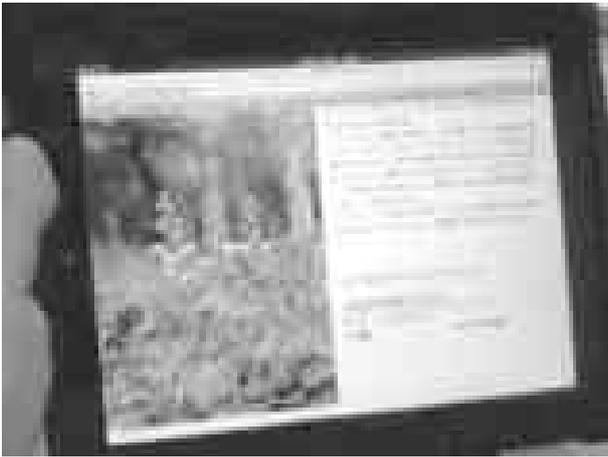


クスサン 繭の中の幼虫

帯広市 中村 修一

新しもの好きの性癖もあって、発売と同時に話題のiPadを手に入れた。ご存じない方のために簡単にご紹介すると、ほぼB5版の大きさ、13.4mm厚の板がそのままディスプレイ付のコンピュータになっている。操作は画面に指でタッチして行い、インターネットや動画、写真、音楽などのマルチメディア、文書作成など普通のパソコンにできることはひととおりできて、用途、目的に合わせて様々なアプリケーションをインストールして楽しむことができるといった代物だ。

先日行われた自然観察会に、このiPadを持参してみた。植物の講師の先生が次々にまわりの植物を解説していく。「この丸い葉はベニバナイチヤクソウです、ピンクのかわいい花が咲きます」。だが季節は10月で花はない。こんな時がiPadの出番だ。



ベニバナイチヤクソウを表示したiPad

野外でも携帯電話の電波が飛んでいるところならインターネットに接続して素早く画像を検索できる（3Gが使えるモデルか、別途モバイルルータが必要）。大きな画面で画像を表示して、参加者に見てもらうことができた。もちろん自分の写真をあらかじめ仕込んでおくこともできる。便利なのは画像や文字を、指を広げるだけの簡単な操作で自由に拡大できることだ。写真の一部を詳しく見たり、小さな文字でも老眼鏡なしで読める。同じことは最近の携帯でも出来るが、画面の大きさが違う。10数人程度なら黒板がわりに使える（手書きできるソフトもある）。

自然観察に電子機器とはと、違和感を覚える向きもあるだろう。確かに直接自然を感じるの方がずっと大切だ。だが使いようによっては、様々な可能性がひろがることは確かだと思われる。

厚岸町 安田 泰平

私の住んでいるところは北海道の東端、カキで有名な厚岸です。ちなみにカキのとれるところといます、大平洋から厚岸湾、厚岸湖と、春にはシラウオ、夏には昆布漁、秋にはサンマ・鮭漁、冬には毛蟹、ホタテ、アサリ、カキと大変風光明媚な美しい漁師町です。

それにしても今年の夏は異常なまでの暑さが続きました。その為か海水温が高くいつもなら7月から始まるサンマ漁が8月になってもまったくの不漁。又秋鮭定置網には道東では見られないマグロ、ブリ、シイラ、マンボウ、ヒラメと南方系の魚種が網に入り、海の異常を感じます。

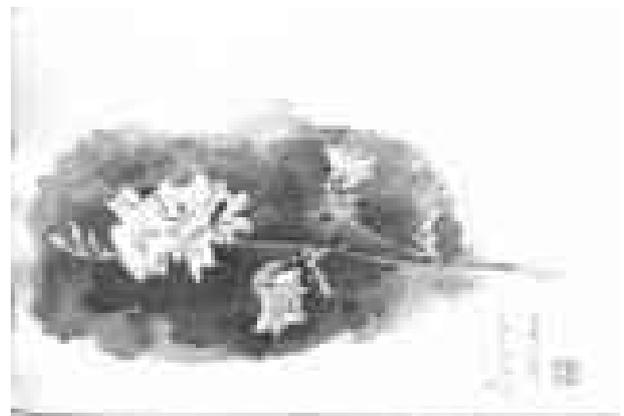
先日、厚岸湖においてアマモの観察会を行いました。こちらも今年はアマモが根元からぬけているとのこと。白鳥の大切な餌であり又色々な魚の産卵場所、海水の浄化作用と大変大切なアマモです。

地球温暖化がさわがれている最近ですが、とても心配です。

（同封の自作絵葉書の一部を掲載します）



知床の海



ハナシノブ

# ウォッチングレポート

北見市 カタクリの森 '10年8月28日

天候 晴 掲載紙 読売

## <晩夏の花と気の早い実たち>

今年は、夏が長く続いている。8月も終わるとい  
うのに30℃に近い暑い日。

京都から来ているご夫妻の参加があった。キツ  
リフネとツリフネソウが並んで観察できた。

カラマツが伐採された後の植物の移り変わりな  
どを見ながらの観察会でした。

### 観察した植物

ツリフネソウ、キツリフネ、メマツヨイグサ、  
ミツバフウロ、ヤマハギ、ウド(実)、エゾウコ  
ギ(実)、ウスバヤブマメ、ハナタデ、コウゾリ  
ナ、ヒメジョオン、キンミズヒキ、チョウセンゴ  
ミシ(実)、ツユクサ、イケマ(実)、オオアワダ  
チソウ、エゾトリカブト、カワミドリ、ヨツバヒ  
ヨドリ、ミヤマヤブタバコ、アキノキリンソウ、  
ミミコウモリ、ヤナギタンポポ、オオホタルサイ  
コ、キツネノボタン、タニソバ、ハナタデ

(竹林 正昭 記)

中央区 藻岩山スキー場 '10年8月29日

天候 快晴 掲載紙 えこほろ

## <秋の虫を探そう>

豊平川へ続く山鼻川が流れる「山鼻川緑地」で、  
多様な生物が住める環境にしたいと草や木を植え  
ているボランティアの方と出会いました。オニヤ  
ンマやコアシナガバチの巣を見せて貰いました。  
ルリボシヤンマも飛行旋回。

暑い日の藻岩山スキー場は木陰がなくエンマコ  
オロギが鳴き、ススキが秋を告げていました。他  
にノシメトンボ、アキアカネ、エゾアカネ、モン  
キチョウ、エゾスジグロシロチョウ、ハエの仲間、  
ヒナバッタ、ハネナガフキバッタ、ヒメクサキリ、  
キマワリ、ゴミムシ、エゾマイマイ、アメンボな  
どを捕まえました。

虫かごやルーペで観察した後は飼えないので、  
捕まえた場所へ戻しました。

(須田 節 記)

千歳市 紋別岳 '10年9月4日

天候 晴 掲載紙 道新、読売、毎日、市広報

## <秋の花>

台風から変化した熱帯性低気圧も通り過ぎ、当  
日は良い天気でした。

木陰では割合涼しいものの、直射日光のあたる  
ところは暑い日でした。

登山口から振り返ると支笏湖や樽前山の眺めや、  
自然観察 97号 ( 14)

所々で木々の間から見える下の方の風景、雨上が  
りのスッキリした空気の中を時々ウグイスの地鳴  
きを聞きながら登りました。

紅葉にはまだ早く、草花も多くはないのですが、  
ミヤマセンキュウ、ミソガワソウ、クサギ、アキ  
ノキリンソウなどの花々や、ミヤマニガウリ、ハ  
ナヒリノキ、オオカメノキなどの果実。

頂上では360度の視界と少し下るとエゾオヤマ  
ノリンドウの花盛りでした。

全員満足した様子で無事に下山しました。

(谷口 勇五郎 記)

中央区 藻岩山 '10年9月12日

天候 晴 掲載紙

## <もっともっと藻岩山 藻岩山散策>

厳しい残暑と降れば激しい雨のせいで、今年  
は植物の成長が良いのかT6から馬の背への路は、  
ササが刈られ、おかげで例年は見えないヤマブ  
ドウがたくさんの実をつけて迎えてくれた。

まだちょっと酸っぱいヤマブドウも、山道の疲  
れを忘れさせてくれる、清涼剤。みんなで味見を  
楽しんだ。ほかに、ミヤマガマズミ、チョウセン  
ゴミシなども試食。秋の味覚を楽しんだ。

花はアキノキリンソウ、ヤマハハコ、ヨツバヒ  
ヨドリなど、ほとんどがキク科。

分岐から慈啓会へのくだりでは、ミヤマニガウ  
リ、アマチャヅルなどを見ながら下山した

(山形 誠一 記)

旭川市 嵐山公園 '10年9月25日

天候 曇 掲載紙

## <秋の嵐山 ~実たくさん、紅葉>

紅葉の始まった秋の嵐山。他の場所と同様、木  
々の実、キノコ等が見られた。

アズキナシ、アマチャヅル、ウリノキ、オオア  
マドコロ、コウライテンナンショウ、ツルリンド  
ウ、ホウチャクソウ、ミヤマガマズミ、ヤブタバ  
コ、ユキザサ、ルイヨウショウマ、ルイヨウボタ  
ンのそれぞれの実。フッキソウの真珠に似た果実  
やハイイヌガヤの実のリキュールのような味が印  
象に残った。

アキノキリンソウのようにこの時期に咲いてい  
る花が目立つ。

「ボリボリ」のキノコが一ヶ所にたくさんある  
のを発見。紅葉のこの時期の嵐山観察会は平成19  
年から4年間続けてきた。一般参加者の声は、と  
ても良かった、楽しかったとの声ばかりであった。  
今年度の旭川の観察会は、嵐山3回、突哨山2回の

実施で、突哨山への移行の年となった。私にとって嵐山は小学校の遠足から知っている山、機会があればまた訪れたいと思う。

(原部 剛 記)

**小樽市 緑地区 '10年10月2日**

天候 晴 掲載紙 道新、朝日、読売、毎日他

**<木や草の秋の実り>**

天気が良く、気温も18℃と絶好の観察会日和の中、参加者24名、指導員5名で出発。まずはトチノキの実、葉、冬芽、葉痕を観察。実の焼酎漬けがどの湿布よりも効果があると、たくさん実を拾う参加者。葉痕の維管束痕に納得の参加者。冬芽に触って、粘性に驚く参加者。

アキノウナギツカミを観察していて、「ママコノシリヌグイと言うのもありますよね」と参加者。

遊歩道に入ると、一週間前の下見のときに皆無だったキノコ類がポツリポツリと目に付き始める。テングタケ、ナラタケ、アカモミタケ、ニガクリタケ、ハナイグチ…。

小田観螢の歌碑で記念撮影。参加者の皆さんの楽しそうな表情を見させていただき、また次回も頑張ろうと思いました。

(岡部 実 記)

**厚別区 大谷地の森 '10年10月3日**

天候 曇 掲載紙 赤旗、まんまる新聞

**<秋を探そう>**

天気予報では、昼から豪雨とのこと、少々焦りながらの観察会となりました。

しかし、厚い雲に覆われた空からは雨が落ちることもなく、秋の森の散策を楽しむことが出来ました。

途中、地形の観察や大谷地の開拓時代を偲びながら大谷地神社にお参りし、境内で市保存林と林床のセンボンヤリを観察。公園内の小道では、玉砂利を敷き詰めたように散乱しているコナラとミズナラのドングリの様子をビックリ。

薄暗い森の中でトケンランの葉や、マムシグサの鮮やかな赤い実を見つけて大喜びするなど、初秋を満喫しました。

(根岸 徹 記)

**中央区 円山公園 '10年10月17日**

天候 晴 掲載紙

**<木の実と紅葉>**

木の実と紅葉と謳いながら、気温が下がらない為、紅葉にはまだ早く、木の実中心の観察会。アサダからカツラ、プラタナス、ナナカマドとまわって、アカナラ、ヨーロッパナラの外来ドングリを観察後、在来種のミズナラ、カシワのドングリ

を観察。それぞれの殻斗と実のちがいを見比べる。

同じブナ科のクリ、そして最後にブナを観察。

ケヤキ、イチョウ、ヤチダモ、オニグルミなど円山の樹種の豊富さに触れた観察会でした。

(山形 誠一 記)

**東区 モエレ沼公園 '10年10月31日**

天候 晴 掲載紙

**<渡り前集結のガン・カモ類を見よう>**

モエレ沼の「海の噴水」の周りのカラマツは、黄葉まであと一步のところでしたが、カモ類は渡りが始まっていました。

オオバンやカモ類、アイサ類などの水鳥を中心にカラ類やタカなども、目前で裸眼や双眼鏡で観察できる絶好の場所です。今回もノスリ2羽が低く空を舞い、ツグミがアキグミを啄ばんで群れていました。クイナが水路に現われて、参加者一同は「珍しい」とばかりに、観たいし撮りたいしで興奮しました。

カイツブリ、クイナ、バン、オオバン、マガモ、コガモ、ヒドリガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウの仲間など水辺の鳥13種、山野の鳥オオジュリンなど11種を確認しました。

(須田 節 記)

**北区 北海道大学構内 '10年11月3日**

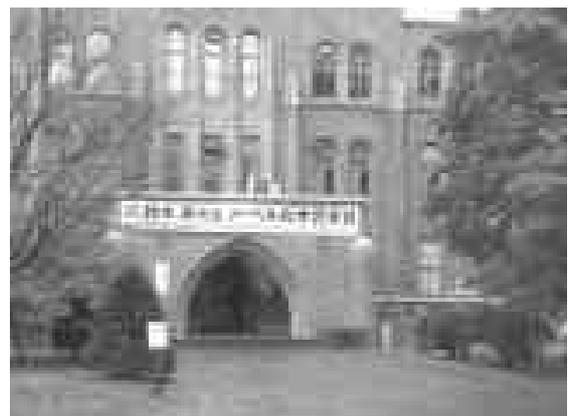
天候 雨 掲載紙

**<秋の北大構内～エルムの紅葉を楽しもう>**

雨足が強くなったり弱くなったりの悪天候でした。遺跡保存指定が北大構内全体であることや構内のサクシュコトニ川源流を見ました。

中央ローン～エルムの森～花木園～工学部～医学部～イチョウ並木と鮮やかな色合いの紅葉を求めて歩きました。紅葉のしくみを図で説明して、それぞれに紅葉や黄葉を楽しんでもらいました。

総合博物館や工学部に掲げられていた「祝 鈴木章名誉教授ノーベル化学賞受賞 おめでとうございます」の垂れ幕や横断幕が、雨の中で輝いていました。



【事務局だより】



☆ 2011年度日本自然保護協会共催の自然観察指導員講習会実施に向け、実行委員会を立ち上げます。開催場所を始め近くの会員の皆様には参加の呼びかけなど多大な協力と援助をお願いすることになります。詳細は決まり次第お知らせしますので、よろしくお願い申し上げます。

☆ 忘年会&講演会講師は、当会の会員をお願いしていく予定です。講師の方は、講演会に引き続いて行われる忘年会の会費が免除になります。

今年は、会場手配の関係で講演会午後6時開始、忘年会午後7時30分開始となります。来年度以降は早めに講演会を開始して忘年会を午後7時30分に終了する予定です。是非、地域の情報を発表してください。遠隔地の会員の参加をお待ちしています。

☆ 観察会追加・変更の連絡は、観察部山形、広報担当岡田、事務局須田、HP担当竹林へお願いします。観察会報告は観察部山形へお願いします。

【理事会だより】 <理事会議事録から抜粋>

☆ 第3回理事会 '10/10/28 札幌市エルプラザ

◇地方研修会「マメ科の植物」'11/1/15(土)エルプラザ2階環境研修室1(顕微鏡使用)。詳細は同封チラシ。

◇'11年全道研修会「道東-遠軽白滝ジオパーク(黒曜石の路頭産地)」の予定。

◇忘年会&講演会は、研修や地域交流の場とし会員同士の交流を図る。講師は忘年会費免除。

◇'10年11/27日(土) 忘年会&講演会

講演会：午後6時～午後7時10分(講師2名、各30分)&忘年会：午後7時30分～午後9時30分。詳細は同封チラシ。

◇'11年日本自然保護協会共催の自然観察指導員講習会に向け、実行委員会を組織。

◇救急救命講習会'11年2/5(土)午前10時～ かねて2・7会議室920 防災協会・赤十字支社。詳細は同封チラシ。会員以外からも募ります。多数のご参加をお願いいたします。

◇'11年4/9(土)総会後の講演会の講師・演題の希望のある方は、'11/1/20までに事務局へお知らせをお願いします。



北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は ----->郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会  
 ----->会 計 畑中 嘉輔 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13  
 Tel/Fax 011-581-5439 E-mail aiai-h@f4.dion.ne.jp

観察会保険料は ----->郵便振替口座 02770-9-34461 北海道自然観察協議会観察保険料  
 ----->観察会担当会計 小川 祐美 小樽市  
 Tel/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp

観察会報告書・資料は 観 察 部 山形 誠一 札幌市中央区双子山1丁目12-14  
 Tel/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

研修会関係は ----->研 修 部 北道 米雄 札幌市北区北10条西2丁目9-1 704号  
 Tel 011-299-1343 E-mail kitamichi.yoneo@violet.plala.or.jp

退会、住所変更の連絡他は ----->事 務 局 須田 節 札幌市東区北40条東9丁目1-13  
 Tel/Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com

**事故発生等緊急時は** -----> アスカ・リスクマネジメント 担当本間氏 Tel 011-873-2655

投稿や原稿は ----->編 集 部 竹林 正昭 北見市端野町3区378-3  
 HP担当 Tel/Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙写真 竹林正昭



自然観察:2010年 11月 15日/第97号 年4回発行  
 (会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)  
 発 行 **北海道自然観察協議会**  
 編 集 北海道自然観察協議会編集部

